

京まち工房



F A L L
情報交流誌

no.

44

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

＜特集＞おつきあいがつなぐまちづくり

日々の生活の安全をおびやかす事件などが起こっている現在、地域の方々と顔が見える関係をつくっておくことが、安心してのびのびと生活できる環境づくりにつながるのではないのでしょうか。おつきあいを再度見直してみませんか？



特集

おつきあい、始めませんか？

金沢市における地域コミュニティ主体の取組事例

町家の保全・再生の取組

京町家を利用した
大学のサテライトキャンパス

参加者からの声

景観・まちづくり大学を受講して

まちセンの新しい取組

京町家ニューヨークプロジェクト
京町家まちづくり調査& MISO計画

京町家まちづくりファンドの取組

ものしりてらじいやの解説

住民自らがまちなみを守るためのルールづくり



「特集」 おつきあいがつなぐまちづくり

～おつきあい、始めませんか？～

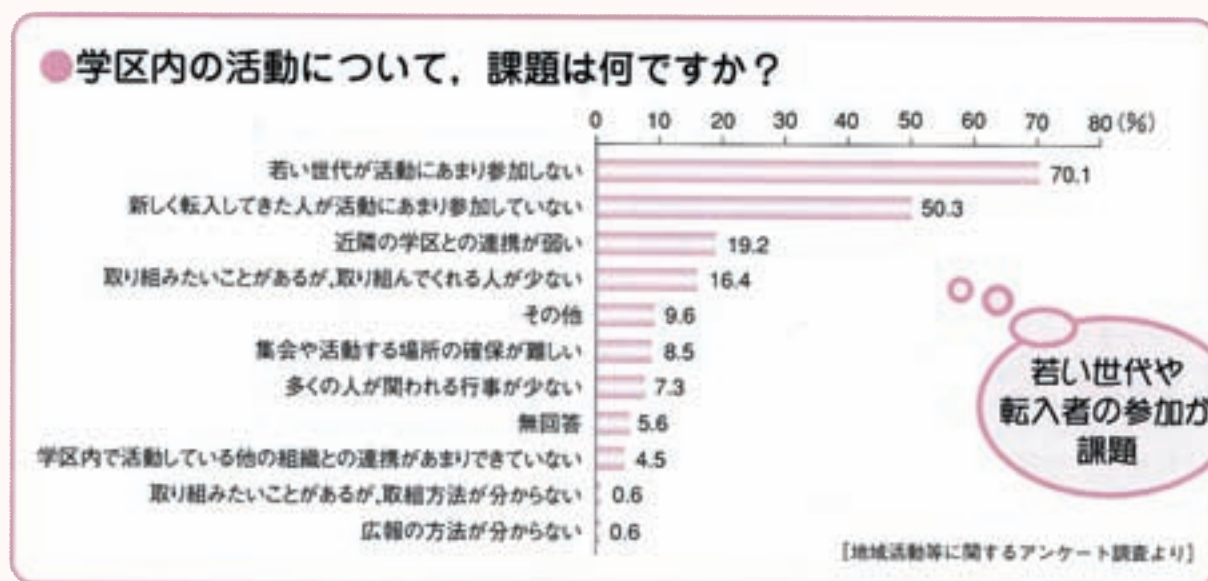
■暮らしやすいまちはおつきあいから

日常の挨拶や世間話など住民同士が顔の見える関係にあること、地域行事へ参加すること、自治組織へ加入したり、役員として地域活動を担うことなど、地域の中でのおつきあいの形は様々です。これらのおつきあいから生まれる関係によって、地域での暮らしやすさが支えられているように感じます。

近年、京都市内では、マンションにお住まいの方が多くなり、2005年の国勢調査では、居住世帯の47.5%を占めるようになりました。また、京都市と京都市市民参加推進フォーラムが2007年に学区の自治組織の代表者を対

象に行った「地域活動等に関するアンケート調査」によると、「若い世代が活動にあまり参加しない」(70.1%)、「新しく転入してきた人が活動にあまり参加していない」(50.3%)が、学区内の活動の課題として高い割合で挙げられています。

そこで、以前からお住まいの方とマンションにお住まいの方との良好なおつきあいについて、センターが聞き出したことを紹介します。皆さんの地域での「おつきあい」について考えてみるきっかけになればと思います。



■おつきあいについて

【以前からお住まいの方の声】

マンションにお住まいの方と一緒に、地域を活性化していきたい、地域の将来について考えていきたい、地域の魅力や自治活動、伝統行事を受け継いでいきたい、そして、これらを実現するためにも、マンションにお住まいの方に、地域活動を維持運営していく上で大切な自治会へ加入して欲しい、などの思いをお持ちのようです。また、おつきあいを深めることにより、災害時に連携をとれる関係ができ、どのような地域コミュニティが望ましいのかというイメージを住民同士で共有していけるのでは、とも考えておられます。



マンションにお住まいの方も参加する夏祭り（有隣学区）

【マンションにお住まいの方の声】

マンションにお住まいの方には、日程が合わない、活動をよく知らない、時間がない、など、地域活動に関心がある場合でも実際の参加が難しい方もおられるようです。しかし、子育てや高齢者の介護や防災など、共通の悩みや課題を一緒に解決していくこと、また、体育祭やお祭りなど、地域の交流行事への参加からおつきあいが始まることもあるようです。

地域活動の内容や運営方法の工夫のほか、その活動を伝える工夫も必要かも知れません。



マンション活動の思い出写真の数々（ファミール伏見）

■ おつきあいのきっかけは

まずは、お互いを知ることが重要です。日常の挨拶や子どもを通じて、また地域行事への参加などを通じて知り合うことが多いようです。以前からお住まいの方は、地域のホームページやパンフレットの作成などで地域の思いを伝える工夫や、地藏盆や夏祭りなどの地域行事でおつきあいを深める工夫をしているようです。一方、マンションにお住まいの方にも、管理組合活動や学校支援

ボランティア、子育てサークルなどを通じたネットワークがつくられているようです。

これらが交わったところに、より深いおつきあいが生まれるのではないのでしょうか。もちろん、この取組だけをしておけば大丈夫というようなものはなく、目的に応じて組み合わせるなどの工夫も大切です。

地域の思いを伝える工夫

◆HP、パンフレット作成

地域の歴史や文化などの魅力、町名の由来や各種団体の取組を紹介するなど、地域の情報を発信する。

◆おつきあいの取り決め・ルール

町内や学区では、マンション建設時の対応方法や、町内会加入、町内会費納入などのルールを作成する。

◆マンションウェルカムパーティ

マンションの入居者と地域の方との顔合わせの場になり、また、取組や行事の紹介やお誘いをする場にもなる。

交流でおつきあいを深める工夫

◆地域行事（地藏盆・夏祭り・体育祭等）

地域行事への参加や、準備や片付けなどの運営を通じて同じ時間を過ごす中で、住民同士がお互いを知るきっかけとなる。



■ 実際にはこんなおつきあいが行われています

こんなお話をお聞きました。「人口減少、特に若い人が地域から出て行ってしまい、子どもが減れば学校の存続も危うい。自分たちの地域を守り、自分たちの子どもの教育環境を守るために、マンションに子育て層が入居し、その人たちも地域を担ってほしい。新しく来

られた方々が気兼ねなく暮らせるように、以前から住んでいる人も協力して、いい地域環境をつくっていききたい」。その方の思いは、マンションにお住まいの方々にも通じ、今では様々な行事で地域を支えるマンション町内会ができたそうです。

■ センターからのお知らせ

ここに紹介しているのは一例で、おつきあいの形は各地域によって様々です。センターでは、このようなおつきあいの事例を、「おつきあいのコトハジメー地域社会でのマンションとの良好なコミュニティづくりの事例集」としてまとめました。

おつきあいでお悩みの方やこれからおつきあいを始めたいとお考えの方は、まずはセンターにご連絡下さい。

(田中志敬)



お知恵拝借

金沢市が、都市政策の調査研究や新しいまちづくりの取組に参加する人材の育成を図るために設置された、金沢まちづくり市民研究機構の研究者の方に、金沢市内における地域コミュニティの活発な取組についてご報告いただきます。

～金沢市における 地域コミュニティ主体の取組事例～

金沢まちづくり市民研究機構研究員(株)日本海コンサルタント 片岸 将広
金沢まちづくり市民研究機構研究員(株)計画情報研究所 安江 雪菜

■ 金沢市における地域コミュニティの概要

金沢市には、概ね小学校区(金沢では「校下」と呼ぶ)を単位とする62の町会連合会があり、その中に約1,340の町会があります。戦災を免れた本市では、古くからのコミュニティを受け継ぐ地域が多数存在します。しかし、近年のライフスタイルの多様化や核家族化・少子高齢化の進行などを背景に、地域コミュニティが希薄化しつつあり、その再生・活性化が喫緊の課題となっています。このような中、「おつきあい」による地域住民主体のまちづくり活動が随所に行われています。以下にその事例の一部を紹介します。



■ 地域コミュニティを主体とした取組事例

① 「みそぐらコミュニティづくり実行委員会」の取組

市中心部の味噌蔵町校下では、地元町会・商店街・大学生グループ・小学校などが協力して「みそぐらコミュニティづくり実行委員会」を設立し、住民間の絆の強化や地域の課題解決に向けた取組が行われています。2008年4月には「笑顔つながりプロジェクト」と題し、地域住民や商店主、大学生たちが児童の登下校時間帯に合わせて地域の清掃や散歩などを行い、児童とあいさつを交わす運動を展開しました。このほか、事務局を務める「賢坂辻サポーターズ倶楽部」(住民や学生を主体とする組織)が



コミュニティづくり実行委員会の会議風景
(提供: 金沢大学経済学類助教 安嶋氏)

中心となって、地元商店街の空き店舗活用など、地域の活性化に向けた活動が実践されています。これらの取組は、地域コミュニティをベースに多様な個人・組織がうまく協働した好事例であり、今後、新たな地

域活動の創出やさらなる活性化が期待されます。

② 「旧町名復活」を契機とした地域活性化の取組

金沢市では、旧町名を歴史的文化資産と捉え、後世に継



笑顔つながりプロジェクトのコアメンバー
(提供: 金沢大学経済学類助教 安嶋氏)

承していくことを目的に「金沢市旧町名復活の推進に関する条例」を施行し、これまでに8つの旧町名が復活を遂げています。2007年3月に復活した「袋町」では、地域住民や商店街などが主体となって、市内の新鮮な野菜を販売する「ふくろう朝市」を春～秋に開催したり、夏には地元商店街などが出店する「ふくろう縁日」を行うなどの取組が実践されています。



ふくろう縁日で賑わう袋町
(金沢市HPより)

③ 全国初! 「集合住宅コミュニティ条例」の制定

近年、市中心部では、既存町会とマンション住民とのコミュニティの問題が増えてきています。そこで、金沢市では、2008年4月に「*集合住宅におけるコミュニティ組織の形成の促進に関する条例」を全国で初めて施行し、マンション住民の町会加入、既存町会との連携強化を促進しています。JR金沢駅近くの長田町校下町会連合会では、管理組合や管理会社などに町会の必要性を熱心に呼び掛け、条例施行後初のマンション住民(60世帯)による新町会設立を果たしました。このマンション町内会は、ボランティアで定期的に近隣の公園の清掃活動を行うほか、町会独自のイベントや連合会主催行事への参加も検討していくようです。今後、マンション住民の町会加入が進み、既存町会との交流を通じて安全・安心なまちづくり活動に発展していくことが期待されます。

■ おわりに

昨今の自然災害の多発や超高齢化の流れ等を踏まえると、住民間の「おつきあい」、「助け合い」を抜きに安全・安心・快適な生活は送れません。地域づくりを担うコンサルタントとして、また金沢の将来を想う研究者として、地域住民主体のまちづくり活動に微力ながら貢献していきたいと思う今日この頃です。

*マンション等の集合住宅や地域団体の人たちが主体となり、集合住宅の施設等に関わる事業者の方と市が協力して、コミュニティを育む環境をつくっていくことを目指し集合住宅の住民、地域団体、事業者、市の役割について定められている。

京町家の保全・再生の事例

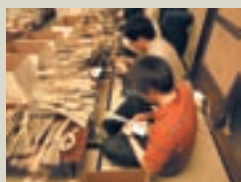
最近「京町家」を利用した大学のサテライトキャンパスを町中で見かけることがあります。そこではいったい、どのような活動がされているのでしょうか。2軒の町家キャンパスに行ってきました。

しんりゅうきょ 「新柳居」(中京区)

～京都学園大学 京町家キャンパス 「結び目」の生まれる風景～

祇園祭に南観音山が建つ、百足屋町。

「新柳居」と名付けられた京都学園大学の京町家キャンパスは、明治32年(1899)に建てられた元呉服問屋さんの店の間をお借りする形で、この4月に開校しました。伝統的な様式を引き継ぐこちらの町家は、平成18年に景観重要建造物の指定を受けています。



祇園祭のちまき作りで、化粧紙をまく学生

京町家キャンパスの誕生に、波多野進学長も「色々な人や想いの結ばれる「結び目」の生まれる場になってほしい」と期待を寄せます。

ここでは、週に約20科目の講義があり、平日は毎日学生が通います。この夏には祇園祭のちまき作りに学生も参加し、地域の皆さんにも喜んでいただけたそうです。そのほか、市民講座をひらいたり海外からの学生に日本文化を体験してもらったりと、4月に開校したば

かりとは思えないような活気です。

「新柳居」のオーナー兼住まい手である小島富佐江さんには、「イタリアのボローニャを訪ねたとき、古い町並みに大学の拠点が沢山あり、そこで学生が学んでいた景色が忘れられなくて。京都の町家でも同じようなことができれば」という、これまで温めてきた想いがありました。



「新柳居」の前で、浴衣の着付け体験後に記念撮影

この日は、台湾の留学生が浴衣の着付けを体験していました。小島さんや京都学園大学の先生、学生たちが着付けをサポート。町家の軒先で笑顔の記念撮影をしている様子が印象的でした。

ここでは、町家に学生が出入りをして授業を受ける景色が、町の日常に溶けこんでいます。

穏やかに少しずつ、いろいろな「結び目」が生まれているようです。(大屋みのり)

「出水町家」(上京区)

～同志社大学 京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト その1～

上京区の山中油店さんは、平成18年に京都市の景観重要建造物、平成19年に国の登録有形文化財に指定されました。山中さんは、「油店の店舗だけでなく、まち全体を魅力あるものにすることにより、新たな人の流れをつくりだし、まちを活性化させたい」と、所有されている周辺の町家の保存・再生をすすめ、景観に配慮した地域まちづくりに貢献されています。



出水町家外観

今年も、京町家まちづくりファンドモデル事業の助成を受けた1軒の町家が、同志社大学の施設「出水町家」として生まれ変わりました。4月から様々なイベントや講座が開催され、7月の七夕祭りでは、学生・地域の人・子ども達の共同作業により大きな七夕飾りを作成しました。通りには、たくさんの笑い声が響き、まちに新しい人の流れができてつあるようです。

この町家を借りておられる同志社大学では、「京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト」として、学生が地域に踏み出し、多様な世代と交流する経験の中で、ライフスキル(社会性・人間力)を高めていくことを目指す取組が行われています。これは、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択されており、新しい学生支援のあり方としても、注目されています。この町家で行われる様々な取組は、学生にとっても、まちにとっても大切で、地域の人、子ども達も、この「出水町家」での次のイベントを心待ちにしていることでしょう。(浜谷富美子)



七夕飾りを作っている地域の人と子どもたち

※同志社大学の同じプロジェクト「でまち家」に関しては、次号45号で掲載の予定です。お楽しみに。



景観・まちづくり大学を受講して (参加者からの声)

多くの市民の方にご参加いただいています「景観・まちづくり大学」が今年度も開講しました。7月、8月は、次世代の地域の担い手である「子ども」をキーワードに、まちづくり情報発信セミナーでは、学校、企業、地域が協働して子どもの生きる力を育むための取組の紹介、京町家再生セミナーでは、将来町家を受け継ぐ親子を対象にして、鍾馗さんを作りながら町家のことを学ぶ学ばせセミナーを開催しました。

京のまちづくり史セミナー (7月26日)

「通り」から見る京のまちづくり

講師：高橋康夫氏(京都大学大学院教授)

私が参加したまちづくり史セミナーとは、市民が、各分野の専門家の講義を通じて、毎回違ったテーマで、先人が大切に育んできた京都を学び、そこから将来の京都を考えていくという講座です。



今回のテーマは、平安京から現在の「通り」の変遷や果たしてきた役割、「通り」の歴史から何を学び、活用することができるかというものでした。「丸竹夷」の童歌を手がかりとして展開される講義は、童歌の変化とともに、都市空間の変遷を感じとることができ、同時に京都のまちづくりの歴史・文化や当時の人々の生活にも思いを馳せることができました。「通り」を起点として、人が行きかい、生活が始まり、連携が生まれ、まちとしての活動があり、文化が育っていく。そこには、再生・循環社会が根付いており、京町家はその中から生まれた一つの京都の文化であり、京町家の再生はこれらの循環型社会の考え方を守ることにつながるというものでした。しかし、年々その町家が減少し、つまり京都の文化も減少し、同時に京都らしさが喪失し続けています。それは誇りと無念さを同時に味わった思いがしました。

先生は、200年後の人が今の京都を見て、美しいと感ずることができる社会を作ることが今の私たちにとって重要なことだと話されました。私たちのできるまちづくりの第一歩は歴史を学ぶことだと思います。この講座は、もっと学びたいという大きな動機付けになりました。今後も継続して参加したいと思っています。

(参加者：F.Mさん)

京都検定受験に当たって平安時代の条坊制と、大路・小路や町の形成等を勉強していたので、今回のセミナーのテーマに特に興味を持った。高橋先生から配布された資料に直ぐ目を通すと期待に違わない内容だったので、これは聞き逃し

てはならないと緊張して聞き入った。先ず「京の通り」の話では、疑問を抱いていた「通り」が戦国時代の末頃から使われたこと、「上る、下る」は中世にはなく江戸時代から使われたようだということ、平安京の大路・小路が地域の隆盛や衰退、都市改造、町(ちょう)の変遷、コミュニティの発展等の過程で変化し現在の「通り名」になり、童歌にも歌われるようになったこと。「丸竹夷」が何故「丸太町」から始まっているかは、下京で歌われていたからのようだということも教えていただいた。「江戸時代はエコ時代」という新聞記事に関して「肥溜」を見たフロイスの日欧の文化比較や「道と井戸」の話等、洛中洛外図屏風の絵や文献を示して説明されたのも面白かった。

後半に「京町家の再生」について「京都にふさわしい21世紀型の新町家を作り出してほしい。地球環境問題の取組として、社会的な重要課題に京町家は重要なポイントである。再生されたものは町家であって、ほんものであらねばならない」とおっしゃった。更に「単体保有は京都の保有に繋がる。様々な手法を使って歴史の町づくりを支える核にならねばならない」と述べられたことに深い共鳴感を覚えた。私事で恐縮であるが、出生以来町家に住み、日常生活の色々な不便さを肌で感じ忍耐を強いられてきたので、管理維持することが誰のため何のためにするのかと言う一般の意見も理解できるのであるが、先人から受け継いだ数々の素晴らしい文化を見捨てることは到底できない。拙宅の築100年目の改修に当たってこのジレンマに陥ったが、幸いにして京町家の形態、「ミチ・オモテ・ナカ・ウラ」という4空間構造や、意匠等を備えていたので、それらを保全しつつ空調や台所等の水まわり、寝室、各部屋の工夫をして日頃の居住性を高め、これまで忍耐を強いられた部分の解決や緩和を図って再生できた。マンション生活に慣れた子孫達が喜んで住み、時代が変わってもこの先拙宅を愛し保全に努めてくれることを期待している次第である。先生が力説されたこの「単体の保有」の一例が文化の継承、地域や町並みの保存、更には京都のイメージアップに繋がれば大変幸甚なことであると思っている。

(参加者：Y.Tさん)

今後のセミナーの予定

●まちづくり情報発信セミナー

～フィールドは京都、まちの事業者たち～

第3回 10/4(土)「映画が繋ぐ・京都のまちと未来」

講師：御館統生氏(大映通り商店街振興組合専務理事)、井上恭宏氏(新京極商店街振興組合副理事長・新京極映画祭実行委員長)、福井雅之氏(京都商店連盟)

第4回 10/12(日)「農業からアグリビジネスへ～ほんものと京都へのこだわり」

講師：山田敏之氏(農業生産法人こと京都株式会社代表取締役)

～お付き合いの始まるマンションの工夫～

第5回 11/9(日)「地域との交流で豊かな生活を目指す～シニアマンションの事例」

講師：浅海満氏(プラスPM取締役企画営業部長)

第6回 12/7(日)「まちの思いと事業者の工夫でおつきあいを生み出す」

講師：石本幸良氏(地域計画建築研究所取締役計画部長)、深見俊司氏(環商事事業企画部次長)、絹川雅則氏(公成建設常務取締役)

京町家再生セミナー (7月26日)

「きみんちだけのオリジナル鐘馗さんをつくろう」

講師：光本大助氏（光本瓦店代表取締役）

パソコン作業に慣れきった私にとって、自らの手でモノをつくる作業は、とても新鮮でした。粘土に慣れるのに四苦八苦、本当はもっとキリリと勇ましい鐘馗になるはずが…。それでも3歳の息子の「父ちゃんじょうずなあ」というオダテに励まされ何とか完成。周りをみれば天性のデザイナー子ども達の手による斬新・異形の鐘馗の数々。一方、時間を延長し真剣勝負で取り組む親達。熱の入りは「子どもの夏休みの宿題に同伴」した程度の動機とは思えません。

町家も減り、住宅や家族、暮らし方も変わる中、今回の鐘馗さんづくりに参加した家族ではどんな会話が交わされるので

しょう。いつの日か自分の家を建てたら私の鐘馗さんも屋根に備えつけ…その時も息子は「父ちゃんじょうずなあ」と言ってくれるでしょうか。

京都在住2年と少々、仕事柄京都を熟知する必要がある私にとって、親子参加型の本セミナーは公私双方のニーズと口実を満たすピッタリの内容でした。

(参加者：I. Rさん)



まちづくり情報発信セミナー (7月27日)

「キャリア教育から生まれる、

新しい学習方法と次世代の地域の担い手」

講師：虎田悦子氏（㈲FDサン代表取締役／バイタル伏見）
山形光央氏（京都市立伏見中学校長）

セミナー当日、京都新聞の一面トップ記事は「保健室登校 高校で倍増 小中学校も増 中3最多」というもの。文科省の2001年と2006年の調査結果比較では、「保健室登校」は高校で2001年度に生徒千人あたり1.4人が2006年度に2.8人に、中学校は5.6人が6.6人に、小学校は1.2人が2.0人にそれぞれ増えているとのこと。「中学生は難しい年代」というイメージを受ける記事でした。

そんな日のセミナーは、「中学生の社会や人との関わり」をどう醸成するかという点で、すばらしい実践事例だと感じました。伏見中学校の学校教育目標にある「悪戦苦闘能力」を身につけるという主旨は、奇をてらったものでなく挨拶、掃除、靴を並べるなどの「当たり前」のことばかり。またなによりも、トップの明確な意志が成果に現われていると実感できる、熱意ある山形校長のお話ぶりでした。その当たり前のことを身につけつつ、「豆記者体験」で校外に生徒を送り出し、地域と共に歩む企業家集

団・京都中小企業家同友会伏見支部の有志が軸になって受け入れています。併せて「社会人講師講座」で、地元の企業や行政・公的機関から学校に出向いて職業観を養う授業を行うなど、立体的な取組に感心しました。

質疑応答では、学校・企業・地域諸団体などの様々な主体が有機的に関わっていくために何が必要かとの問いに、虎田氏は「信頼関係を築くコミュニケーション」、山形校長は「教師としての原点に還り、どんなことから逃げない」と回答されました。「保健室登校」は学校と家庭だけで考える課題ではないことに気づいたセミナーでもありました。

(参加者：荻原 靖さん)



セミナーレポーター募集！

センターが開催しているセミナーのレポーターになってみませんか？詳しくはレポーターまでお問い合わせください。

●京のまちづくり史セミナー

～建築物からまちづくりの背景を読む～

第5回 11/22(土)「三条通の建築物から、まちづくり史を読む」

講師：衛藤照夫氏（京都府建築士会会長）

※京のまちづくりセミナー、まちづくり情報発信セミナーとも
時間：14時～16時 料金：500円 会場：景観・まちづくりセンター

●京町家再生セミナー

第4回 10/19(日)「子育ての現場としての町家暮らし」

講師：高林素樹氏（紀書房企画部長・町家住人）

梶山秀一郎氏（京町家作事組理事長）

堀 栄二氏（京町家作事組理事）

会場：京町家作事組事務所

(下・新町通花屋町下る東若松町832)

時間：14時～16時(～17時まで相談に応じます)

料金：無料



まちセンの 新しい取組

センターでは、9月以降新しい取組が目白押し！京町家の保全・再生の輪を世界的に広げていく「**京町家ニューヨークプロジェクト**」、京町家の実態調査を行い、今後の地域づくりや住まいづくりにも活かせるデータベースを作成し、京町家保全の施策にもつなげていく「**京町家まちづくり調査**」、京町家まちづくり調査の拠点で、センターをもっと身近に便利に利用してもらえる機能を備えたサテライトオフィスを設ける「**MISO-まちセン・Information・サテライト・オフィスー計画**」を行います。今号では、概要だけの紹介になりますが、次号では、シンポジウムの様子や調査の進捗状況の報告をしますので、楽しみに。

京町家ニューヨークプロジェクト ～京町家の危機 再生への挑戦～



京町家の保全・再生を推進するために設立した「京町家まちづくりファンド」への協力の輪を拡げていくことを目指し、センターの評議員である立命館大学教授のリム・ボンさんのコーディネートにより、今年11月、初の海外プロジェクトとしてニューヨーク・京町家シンポジウムを開催します。昨年度からセンターと交流のある*ジャパン・ソサエティ本部のムラセホールにて、ニューヨークをはじめ世界各地で歴史的建造物の保全・再生に取り組む団体、これらの活動を支援している企業家や専門家を招き、円卓会議と公開フォーラムを行います。

また、シンポジウム参加スタディツアーの企画と募集を行い、一般市民も参加する総勢26名でのアメリカツアーを行うこととなりました。このツアーではニューヨークとボストンを訪れ、町並みや歴史的建造物の保存の事例も見学します。

9月15日には、プレイベントとしてセンターで景観・まちづくりシンポジウム「京町家の危機 再生への挑戦 -ニューヨークプロジェクトに向けて-」を開催し、京町家の保全・再生をニューヨークでアピールするための議論を重ねました。

これらの取組を契機にして、京町家の重要性とともに、京町家が危機に直面している現状を世界に発信し、京町家の保全・再生を推進するための世界的ネットワークの形成を目指します。

*ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク)

1907年に創立された日米の民間交流の草分けにして全米最大の日米交流団体。日米の相互理解と友好関係構築を目的に、政治、経済、教育など幅広い分野で講演、展示、舞台公演、人材交流などの事業を実施。アメリカ合衆国の非営利法人で、約3千人の個人会員と約160社の法人会員を持つ組織。

●●ニューヨーク・京町家シンポジウム プログラム (同時通訳で実施) ●●

11月4日(火曜日)

【円卓会議A】

テーマ：米国における歴史的建造物保存の発展と哲学

11月5日(水曜日)

【円卓会議B】

テーマ：歴史保存のための資金調達

【公開フォーラム】

- ・ドキュメンタリー映像の上映
「京町家の危機、再生への挑戦」
- ・基調講演

(京都市景観・まちづくりセンター理事長 三村浩史氏)

- ・パネルディスカッション

京町家まちづくり調査 & MISO-まちセン・Information・サテライト・オフィスー計画

京町家まちづくり調査は平成7、8年度に実施された市民調査を先駆けに、平成10年度と15年度に京都市とセンターが中心となり、市民ボランティアと市民活動団体、大学研究室等との協働で実施されました。中京区・上京区・下京区・東山区の内、明治後期に市街化されていた範囲を対象として実施された平成7年から10年にかけての第1期調査では、約28,000軒の京町家の存在を確認し、都心18学区を対象として追跡調査した平成15年度第2期調査では、13%の京町家が滅失していることが判明しました。

今回、京都市、立命館大学地理学教室、センターの3者は、平成20年度と21年度の2カ年で、京都市全域を対象とした京

町家の悉皆調査を実施します。今回の取組は、地域まちづくりの展開につながるような情報交流を地域の皆さんと行うとともに、京町家の保全・再生・活用に繋がる情報を整理し、行政や公的機関が施策立案を行う際の基礎資料としても活用し

ていく予定です。さらにはこのデータが、京町家に関するだけでなく、今後の地域づくり、住まいづくりの基礎データベースになることを目指しています。

調査の方法は外観調査とアンケート調査とし、まず最初は西陣地区から、元西陣小学校に設置したMISOを拠点として調査していきます。

またMISOでは、身近な相談窓口として、「町家相談」、「まちづくり相談」を行うとともに、地域にとって親しみのある情報発信拠点となることを目指し、セミナー事業や地域住民の方々に参加を呼びかけ実施する交流イベントなどを展開していく予定です。



調査の様子

MISO

まちセン・インフォメーション・サテライト・オフィス

元西陣小学校に出張所をつくっています!

期間

2008年9月～11月

開催時間

木・金：午後1時～午後3時
土・日祝：午前10時～午後4時
(月・火・水はお休みです。)

MISOお問い合わせ

080-6158-6370

京町家まちづくり調査
町家のなんでも相談(無料)
展示、セミナー、イベントなど...

こんなことを取り組んでいます。



「けいこ」
「まち」
センターのまちづくりです。

(財)京都市景観・まちづくりセンター

地域のまちづくりや、町家の保全・再生のお手伝いをしています。



京町家まちづくりファンドの取組



京町家まちづくりファンド事業報告会を行いました

6月27日に京町家まちづくりファンドの事業報告会を行いました。当日は、33名の参加がありました。島原にある「ギャラリーのざわ」にて、平成19年度の助成物件である「西澤邸」の

改修現場の見学と、重要文化財である「角屋」の見学を行いました。島原には、江戸時代以来発展してきた花街としてのまちなみが今も残っており、それらを見ながらまち歩きもしました。



大門



ギャラリーのざわ



西澤邸内部の見学



角屋の見学

平成19年度改修助成モデル事業について

【西澤邸】

西澤邸は、島原に残る数少ない元お茶屋さんで、繊細な細部の意匠が特徴的な大変凝った造りとなっています。このような町家を「後世に残していきたい」とモデル事業に応募し、改修されました。「1番の目的は耐震改修をし、安心感を得たいというところではありましたが、改修する中で色々な工夫や意匠を発見し、この町家について向き合い、魅力を再発見する機会となりました」と、西澤さんは話してくださいました。



改修前



改修後

【アリサハウスミュージアム】

振本ありささんは、プロの職人さんたちの指導の下、中京区で空家だったニコイチ長屋の町家を自分たち素人で土壁などを修復し、アリサハウスミュージアムとして再生されました。センターでは修復の一部をモデル事業で応援しています。「庶民の生活が息づく庶民の町家を、ほんまものの京都の文化を体験できる場所として残していきたい」という想いで、ひな膳の会や、月に一度の町家ほんまものの会や折り紙教室など様々な活動をされています。また、その他にもいろいろなイベントを開催され、ありさんとそのご家族を中心に多

くの方が集まって、なんとなく素朴で暖かくて、町家を訪れたことがない人でも懐かしさを感じられるコミュニティが生まれています。



現在右側の町家を改修中のアリサハウスミュージアム



京都エネルギー教育研究会による見学会

【明倫の修景工事】

平成19年度の追加募集で選定されました「明倫学区でエアコン室外機の修景事業」の工事が行われました。明倫自治連合会まちづくり委員会がとりまとめ、エアコン室外機のカバーとして21基の木製(間伐材利用)の格子を取り付けられました。京都府建築工業組合の後継者育成研修会「葎塾」の若手の大工さんにより2日に渡って設置作業が行われました。エアコンの囲いを設置するという小さな工事ですが、数軒が協力して行うことで、大きな効果があったと感じられた取組で

す。変化した明倫学区のまちなみをぜひ見に行ってください。



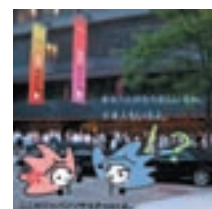
明倫学区のまちなみ



室外機カバー設置の様子

平成20年度改修助成モデル事業について

7月23日に京町家まちづくりファンド委員会が開催され、今年の春に応募いただいた18件の中から10件が改修助成モデル事業として選定されました。上京区5件、中京区3件、東山区2件の計10件で、住居としての利用、地域の拠点や町家の体験スペースとしての利用、地域の福祉施設としての利用など様々な活用形態が見られました。今後、これらの京町家の改修工事が始まります。お楽しみに。第2期の募集は10月1日から11月15日まで行います。ご応募お待ちしております。



平成20年度賛助会員 敬称略(五十音順)

H20年8月末現在

【個人】

青木 義照	岡崎 篤行	北村 信幸	佐藤 友一	高谷 基彦	中村 忠夫	船橋 律夫	柳原 博實
足立 勇一	岡野 哲也	木村 忠紀	里見 晋	瀧本 章	西居 智司	古川 幸隆	山崎 一樹
姉崎 正史	岡本 晋	木村 裕	松寿	武井 政石	西澤 亨	平家 直美	山田 昌次
天利 義一	岡本 秀巳	木村 眞紀子	柴崎 孝之	多田 吉宏	西嶋 淳	星川 茂一	山本 一博
荒金 博美	岡山 尚義	桐澤 孝男	島崎 耕一	田中 照人	西嶋 篤行	星野 民嗣	山本 一宏
池原 匡新	奥 美里	桑原 尚史	島田 和明	田中 行夫	西嶋 直和	本田 徹	山本 耕治
石川 貴洋	奥山 脩二	小嶋 寛信	清水 博之	田辺 真人	西村 健	前田 磯	山本 茂
石崎 了	押谷 昌成	小杉 貴子	城本 邦彦	多兄 貞子	黒黒 健夫	正木 敦士	湯浅 博央
石原 一彦	影近 晴治	小中 勝	新喜 富雄	寺田 恵子	長谷川 賢一	松井 浩一	横山 経治
石本 幸良	笠岡 英次	小林 正純	杉浦 伸一	寺田 敏紀	旗 哲也	松田 彰	吉田 真由美
糸井 恒夫	桂 豊	齊藤 修一	寿崎 かずみ	寺本 健三	早崎 真魚	松村 光洋	善積 秀次
稲石 勝之	亀井 孝郎	佐伯 康介	鈴木 知史	戸所 泰子	林 建志	松村 義光	淀野 実
稲波 良幸	川上 輝夫	酒井 英一	炭崎 勉	内藤 郁子	林 裕之	松本 正	鷺頭 雅浩
犬伏 真	川口 高穂	坂根 朋子	関岡 孝緒	中井 徹	林 道弘	丸本 英俊	その他の皆様
今富 僚二	川口 東嶺	坂根 正樹	園 孝裕	中川 慶子	吹上 裕久	水田 雅博	
上原 智子	河田 久章	坂本 登	醍醐 孝典	中沢 洋雄	福島 貞道	溝上 省二	
江籠 義貞	上林 研二	坂本 正寿	高川 祐子	中島 吾郎	福島 正俊	宮本 日佐美	
江田 頼宣	上林 隆	佐竹 和男	高木 勝英	中島 弘益	福原 堂礎	村田 清	
大島 仁	神原 浩之	佐藤 七重	高木 伸人	中谷 弘	藤井 茂	森 広士	
大関 法子	北川 洋一	佐藤 洋	高橋 修	中司 さゆり	藤本 春治	森岡 早苗	

【団体】

NPO法人 京滋マンション管理対策協議会

NPO法人 マンションセンター京都

オムロン株式会社

株式会社ジェイアール西日本伊勢丹

京セラ株式会社

京都駅ビル開発会社

財団法人 手織技術振興財団 公益事業部 織成館

佐川急便株式会社

社団法人 京都府建築設計事務所協会

修徳自治連合会

都市居住推進研究会

平安建材株式会社

有限責任中間法人 相統総合相談センター京都

有隣自治連合会

ローム株式会社



マチ右衛門のつぶやき

私は、平成20年8月1日から1か月間、インターシップ実習生としてセンターにお世話になりました。実習を通してまず驚いたのは、人との出会いの多さでした。訪問を通してたくさんの方のお話を聞くことができました。地域によってそれぞれ抱えている課題は違うものの、住民の方の地域に対する愛着や、地域をもっと良くしていきたいという熱い思いはどの訪問先でも強く感じられました。また地域との関わり合いの中で、地域の要となる祭りや行事などは地域コミュニティの形成にあたって非常に重要であることを実感しました。そしてこれらの行事を通してセンターは、住民が主体となって運営を進めていくための提案やサポートをすることで、地域が一体となるように力を注いでいました。

また、学生が地域の中に入って地域の課題や活性化に取り組むために、センターは学生や地域の間にに入り、どのようにすれば地域と学生との関係が深められるかなど、常に人と人とのつながりを大切にしながら業務に取り組んでいました。

短い実習期間でしたが、実に充実した時間を過ごすことが出来ました。この1か月で、本当にたくさんの人との出会い、人と人との繋がりの大切さが身にしみて実感しました。

実習を通して得た体験を、ぜひ社会に出たときの糧として胸に刻んでいきたいと思っています。

様々な機会に地域や社会について教えていただいた皆さん、そしてセンターの皆さん、この1か月間本当にありがとうございました。(M・A)

私と京都



京都市都市計画局長
里見 晋

「やまがあおい!」と息子が急に叫んだ。

..... 昨年の梅雨時だったと思う。京都に住み始めて間もない頃だが、保育園へ息子を連れていく途中のことである。東山連峰方面にちぎれた雲がたなびいている、雨あがりの朝であった。感動が胸にひろがった。その色を発しているのが雲なのか「もや」なのか山自体がそうなのか。青みが強かったが、これが言葉として知っていただけの「山は紫」ということなのではないか、と感覚として感じたのは始めてであった。

もうひとつうれしいことは、朝、家の外に出て大きく息を吸い込むときに

爽やかさを感じられることである。東京の郊外部に生まれ、東京在住が長くなった私としては、高原のような空気を150万都市で味わえるとは思ってもいなかった。その空気のせいであろうか、三山に囲まれているのに京都は意外に「空が広い、高い」と感じる。東京の郊外部でさえ、私が生まれ育った時代では(関東平野は広いのだが)、空を広く感じたことはなかった。

また、朝、ウグイスや名を知らない鳥の声で目覚めることもついぞ最近ではなかった。ここで思い出されるのは、倉敷が生み、クラレの社長等を勤められ、京都にも居住していた大原総一郎氏である。10年ほど前に岡山県庁に勤務していた頃読んだ伝記には彼の言葉として、「文化都市」の条件の一つとして「5、6月頃、1時間以内でいける場所に20種類以上の小鳥の声を聞くことができる森を持つこと」という文章があり、比較可能性にとらわれすぎているような都市比較等のデータ・指標類の限界を感じていた私にはとても印象に残った。今、京都市の都市計画、景観政策を担当することになって、京都の価値を直接的な経済的指標だけでなく

都市全体の多面的な価値として表現する必要に迫られているが、このようなアプローチも極めて大事なことで改めて感じている。都市の魅力、活力を表現する際には、経済的活力を基本としつつ、小鳥の種類の多さや、いい森を持つこと、さらには山の色が変化することなど「非価格競争」の世界で各都市が切磋琢磨するようなことができると、いい雰囲気の世界の中になっていくような気がしている。

景観・まちづくりセンターとのご縁で言えば、前職の国土交通省で京町家まちづくりファンドへの支援に関わったが、今度はファンド自体に関わるようになった。町家も全体の建築物の数からみれば少ないものだが、客観的、経済的数値で表現しにくい魅力を持っているものの一例であろう。

今後、京都という都市の現在の二大看板の一つと思われる、まちの魅力、価値に磨きをかけるため、どのような貢献ができるのか、自問しつつ、色々な方と一緒にまちづくりを考えていきたいと思っているところである。

ものしりてらじいやの解説



住民自らがまちなみを守るためのルールづくり

住民自らがまちなみを守るためのルールづくりには、地区計画や建築協定という制度があることをみんなは知っておるかのう。京都市内でも、これらの制度を活かして特色あるまちなみを守っておられる地域があるぞ。

地区計画というのは、建築物の用途や構造などの基準のほか、場合によっては、道路や公園の配置なども定めることができる、都市計画法に基づいた制度なのじゃ。定められた基準に適合しているかどうかは、市などの審査機関がチェックすることになっておる。一方、建築協定は、建築物の用途や形態、意匠などの基準を、地域住民が自ら設けることができる、建築基準法に基づいた制度なのじゃ。そして、定めた基準は、協定地区内のみんなでお互いに守り合うというもので、そのチェックは住民同士で行うことになっておる。じゃから、建築協定は、みんなでまちなみを守っていくといった意識の向上につながっていくのじゃ。この他に

も、それぞれ特徴があるが、2つの制度を併用することでもできるから、地域のニーズに応じてうまく活用していけばいいじゃろう。

そうそう、2004年に景観法が制定されたが、この中にも良好な景観形成という視点も取り入れた「景観協定」という住民合意によるまちなみづくりの制度が盛り込まれておるが知っておるか。これは、緑地や外灯といった周辺の景観形成に関わる基準も定めることができるようになっておるので、良好なまちなみづくりがより幅広くなったということじゃ。チェックについては建築協定と同じじゃ。京都市内でも活用はこれからじゃが、景観協定もみんなのまちなみを守っていくルールづくりの一つになるんじゃないかと思っておる。いずれにしても、一人一人が地域の環境を大切にしようと思う心が大切じゃ。ルールの前にまずマナーというのは、言うまでもないことじゃのう。ふおっふおっふおっ。

京町家は、世界から見ても特別な文化財産なんだね。僕たちも大事に受け継いでいかなきゃね。



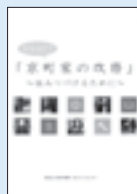
センターからのお知らせ



まちづくり、町家の“いろは”そろってます！

なるほど！「京町家の改修」～住みつづけるために～

京町家を維持・継承していく上で欠かすことのできない改修。この本では、京町家の特徴などの基礎的な知識から、改修方法や工事を頼む上で知っておきたいこと、実際に改修された事例、その他役立つ情報を、図や写真を用いて、わかりやすく掲載しています。(1,000円)



京都まちづくり学生コンペ2007記録集

昨年度実施した学生コンペでは、田の字地区を舞台としたご近所づきあいや駐輪問題、路地の活用などのまちづくりのアイデアが、全国の熱意ある学生から46作品寄せられました。コンペ対象地域の情報も掲載。学生の皆さんの熱意のつまった記録集、好評発売中！(500円)



京町家・茅葺農家にちゅあーとキット

精巧なミニチュアの京町家と茅葺農家のキット(1/100縮尺)を販売しています。あなたも組み立てに挑戦してみませんか？その他、庭セット(板塀、自転車、灯籠、平石)、ディスプレイ台などオプションパーツ、道具も取り揃えています。(京町家・大店・角店・茅葺農家 各3,900円)



※このキット販売の収益金は、全額「京町家まちづくりファンド」への募金に当てさせていただきます。



その他いろいろ販売中！



まちづくり、町家に関する相談を受け付けています

まちづくり活動の進め方や、町家の保全・再生・活用についてのご相談などに、アドバイスや情報の提供を行っています。お悩みの方は、まず一度ご相談ください。



by 盛楽思兔 vol.18



センター活動拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp

HP: http://machi.hitomachi-kyoto.jp

●開館日(相談の受付等)

9:00～21:30 (月曜日～土曜日)

9:00～17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日に当たるときは翌日)

年末年始(12月29日～1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



平成20年度賛助会員の募集

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

【特典】

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
 - ・冊子等センター発行物の割引
 - ・ニュースレターでの活動紹介
 - ・シンポジウム、セミナー等への優待
- 賛助会員の方は、景観・まちづくり大学のすべてのセミナーを無料で受講できます。(賛助団体の方はひとつのセミナーで3人まで受講可)

【年会費】

個人1口:5千円 団体1口:5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。